

講師をしている大学の演習で毎年春に学生を空堀商店街に連れて行く。かれこれ10年になるが、空き家の活用方法や営業形態の変化が顕著である。特に商店街ではこれまで生鮮食料品や軽衣料、雑貨や文具などの日常買い廻り品の営業から、飲食形態の店舗へと変化している。約88店舗で構成される東西空堀商店街の61%にあたる54店舗が、現在飲食店として営業されていることは実に驚きだ。観光目的や働く場所を利用してするなど、地域外からの需要が高くなっているという理解が正しいだろう。また加えて、自主発行される地域紹介マップが数多く増え、多面的に紹介されることでウォーカビリティーの高い町になってきている。空堀を訪れる人の機会や動機が変わってきたのだろう。

さて、大学の演習は、空堀商店街を中心に広がる住宅地と路地との関係を探る。読みながら、今後の町の更新をそれぞれの視点から建築的アプローチしようとしたものである。計画される課題には3つの活用設定がある。①町中にある空き家の活用②路地中にある遊休地の活用③商店街に残る歴史的建築物(仕舞屋)の活用。いずれの計画も法的要件を除いては用途や規模の予条件を提示せず、学生各々が空堀の現状を把握し地域課題をその計画を通じて解決させるといった指向だ。(毎年出題の通り、物件を設定する際に、本紙発行者である永井さんの協力を頂いている。この紙面を借り感謝申し上げます。)

暫く前までの学生からの提案は、空き家を魅力ある店舗に改修し賑わいのある人の流れを呼び込んだり、空き地に集合住宅などを計画し街並みの景観に寄与しつつ、長屋の生活を継承させようとした提案が多かった。しかし近年、デザイン性の力みに頼らず、場所や時間を共有し新しい場所の使い方を創作し、課題を解決しようとした提案が見受けられるようになった。もっともその方法もユニークな提案があるので紹介しておく。地域にも開放され繋がりを感じるゲストハウスやシェアハウスのあり方を問うた提案。単体の店舗だけではなく、複数の店舗の連携でそれぞれのメリットを見出し、面的に賑わいを作ろうとした提案。中には空地を暫定的に菜園や畑にし、建築的活用でない方法で創造的な暮らしを見つけようとした案もある。また、インスタグラムなどの情報発信、収集力に期待し、SNS上で架空店舗をあたたかも現実にあるかのように構築した後、そのレスポンス内容を同時に提案にしようとした方法論は正に現実味があつてハッとさせられた。



私が活動する長屋すこつとくばんねつとわく(空)では、そうした創造的な居場所作りを龍造寺町の路地で昨年10月1日からスタートさせている。路地の中で接道をせず長らく空き家で使われていかなかった長屋をクリエイター

## だんだん変わる人やまちの使い方、 変わらないものにする方法

# からほり新聞

第43号  
(2018.1.31)

### 「空堀界隈を散策される皆様へ」

- ◆路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
- ◆美しい石畳や木造家屋に「ミ」は似合いません。
- ◆商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。

のたまり場(シェアオフィス「龍造寺Lab. 造」として活用をし、路地の存続と空き長屋の活用を考えたものである。現在、グラフィックなどのデザイナーや裁縫職人、趣味の利用者、大学の研究者、漫画家などの幅の広い使用方で、路地のコミュニティとしてメンバーが集まっている。会員制の利用としているが、一般利用できるカフェも備え、時には教室、講習会などの催しの会場としても使われるマルチなスペースであり、会員同士の交流を積極的に促す環境として整えている。龍造寺Lab. 造は、変わりゆく人々で変わりゆくまちの使い方が変わらな

いもの作った一例である。(Caseまちづくり研究所 松富謙一)

お年寄りの皆さんが、住み慣れた町で楽しく充実した暮らしが続けられることを願って、支援活動や暮らしの潤いになる様々な企画を推進しています。

- ◆ふれあい喫茶▶2月10日(土)9:30~11:30▶モーニング200円
- ◆おもしろい塾▶2月24日(土)10:00~
- からほり悠 ☎06-6765-1566▶2月10日(土)11:00~▶おうち出来る本格韓国料理教室▶参加費(要)
- 隆祥館書店 ☎06-6768-1023
- ◆「ある文民警察官の死~カンボジアPKO23年目の告白」▶NHKディレクター旗手啓介さんトークイベント▶2月17日(土)15:00~
- たみんち ☎06-6777-1798
- ◆三線&ウクレレしませんか。▶初心者歓迎、時間、曜日相談▶参加500円
- たなかやすこのちいちゃいおはなし会 ☎06-6765-5571
- ◆おはなしさろん▶2月3日、2月17日(土)▶時間:14:00~16:00▶参加費:1000円▶場所:いずれも「たなかやすこおはなしさろん」
- 高齢者外出介助の会 ☎06-6764-4002  
「からほりさろん」に気軽においでください。
- ◆てるてるクラブ▶2月10日(土)13:00~15:00▶からほりさろん▶最後まで口から食べられるように▶北ちづる▶参加費200円
- 空堀まちなみ井戸端会 ☎06-6764-4002
- ◆空堀まちなみ寄席▶2月24日(土)14:30~15:30▶関電会館▶出演:桂慶次郎、林家卯三郎▶空堀を舞台にした落語を語っていただきます。
- 桃園会館 ☎06-6762-5599
- ◆桃園寄席▶3月17日(土)18:00~▶参加費300円▶モーニング喫茶▶3月25日(日)9:00~▶参加100円▶コーヒー&紅茶、サラダ等
- 桃谷会館 ☎06-4304-2266

お買い物は空堀商店街で

平成30年版スマートカレンダー  
お求めは、からほりさろんまたはウェブで



「目」  
今日の日付は、デジタル  
瞭然  
予定は、紙のカレンダー

サイズ約 60X42cm ¥13,489(税込み)  
アトリエ ビエント  
<https://www.atelier-viento.com>

### ☆編集後記

◆1月もあつという間に過ぎ、終活突入者には残り時間が、刻々と減っていく。(や)

◆全国的に爆発的に増えている空き家。いろいろな事例も増えてきているけど、持ち主の想いと法律、やりたいことがつなげられたいいな

と悶々としてます(のぶ)  
◆今年は何年なので気合を入れて過ごします。(岡田)

◆なかなか思うように物事は進みません。しかし、日だけは確実に過ぎていき、毎日が早回りの時計のようです。最近は何と何回こんな寒さを超すかと数えてみたら10回かな。若い時と違って日々の寒さより冬の塊で思っている私がいいます。(ケラ子)

「からほり新聞」は高齢者外出介助の会に集う有志が、愛する「からほり」の賑わいを願って作っている無料のコミュニティ紙です。ご意見・感想・投稿・イベント情報などお待ちしております。また、「新聞置いてあげてもいいよ」とおっしゃってくださいのお店も大募集。

「からほり新聞」に参加したいな」と思われる方、大歓迎です。気軽にご連絡ください。(現在55カ所設置)

特定非営利活動法人  
**高齢者外出介助の会とは?**  
大阪市中央区松屋町4-8 メイツ松屋町1階  
TEL&FAX 06-6764-4002  
月~金(10:30~17:00)  
E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp  
ホームページ: odekake-karahori.com

2月18日: 11:00 ~ 13:00 ひなたぼっこレッスン 「大人の書道・篆刻」参加お手本、ケーキセット1700円

# 思い出すのも辛い

## 被災した日々の思い出

「荒木テイ子さん 昭和4年生」

第二次世界大戦の時、私たち一家は大阪市の千日前、昔あった大劇(後の千日デパート)の近くで飲食店を営んでいました。当時は大劇の少女歌劇団の団員さんがよく来店、賑わっていました。特配という業者用の配給で何とか営業していましたが、それも次第に減り父はバイトでふぐ屋さんへ。そこで貰うふぐの骨から取った出汁で炊いた雑炊は店の看板メニューでした。

何とこの夜が大阪大空襲の3月14日だったのです。病院の人に叩き起こされ外へ出たとたん猛烈な熱風に襲われ、思わず防空頭巾を押さえ夢中で西の方へと走り出しました。チロチロ燃える橋を渡り御堂筋に出ると、自転車が電線に引っ掛かり、かぶった布団が燃えている人もいました。その夜は大丸とそごうの間で夜を明かし、父を探してうろうろしている、幸いにも父に出会うことができずしました。折角転居した家も焼失し、中垣内(現大東市)の叔母を頼るしかありません。上六まで歩き近鉄で瓢箪山へ。ところが叔母の家には一足早く一家族が疎開しており、更に学童疎開の子供が四人もいたのです。仕方なく私と姉は勤め先が焼け残ったのでそちらの寮に入り、父も外の親戚に移りま

した。5月1日の大空襲の時には、勤め先の安治川工場が消失、逃げ道の安治川の市電通りには焼夷弾の雨が、100m先にいた友人が大火傷を負い、急いでその友を連れ防空壕に入りましたが、機銃掃射が始まりビシビシと弾のはじける音は凄まじく、土の中へ潜り込みたい気持ちで突っ伏していました。連れて行った病院は満員で、友人は廊下に寝かせて帰るしかありません、帰るにも寮は焼けて無く、しばらくは野宿をしました。6月になって、社長のご好意で社長の親戚のお家(同じ中垣内)へ疎開することになり、火傷の友を大八車に乗せて(私は後押し)安治川から徒歩で上六の近鉄線へ。瓢箪山に着いた時に地元の

婦人会の人が出してくださった温かいお茶には涙がこぼれました。そこで2ヶ月ほど友人の看病をし、親戚に引き取られていったのを機に私も親戚の家に移りました。

その後も空襲は続き、中でも8月14日の森の宮砲兵工廠への爆撃は物凄く、半日は続きました。家は小高い所だったのでその様子がよく見え、見ている内に、これから日本はどうなっていくのだろうか、私たちに未来はあるのだろうか。と何とも言えない憂鬱でイヤな気持ちに襲われたのが忘れられません。

行く先々で戦災に遭い、家も家財も衣服も一切失くした上に炎の中を2度も逃げ回った経験は、今思い出すだけでも胸が苦しくなります。二度と再びこのような悲惨な戦争が起こらない事を祈って止みません。



ケラ子の介助日記

### 一昔前の社員だったら？

高齢者外出介助の会  
事務局長 永井佳子

自宅の灯りのリモコンがいくら押しても反応しません。開けると長い間電池を触っていないので液漏れして、コイルに付着してしまいました。電池を入れ替えたなら何とかなると変えたのですが点きません。仕方なく買った量販店にリモコンを持っていききました。リモコンを買えばいいと安易に思ったのです。調べて「12年も前の物なのであるかわからない。だめな時は灯りも取り換えるしかない」。「買い替えというこね。考えるわ」確認して、持ち帰りました。

取れたので電池を入れると灯りが点きました。これで買い替えなくていい。これからは電池を時々点検しよう。もったいないし、単純な造りに見えたので何とかなると磨いてみたのです。これが一昔前の社員だったらどんな対応だったのだろう。もしかしたら、磨けば使えるようになるかもしれないと言われたかも。それでは、製品は売れないし。親切にしてみたら、買う時はあそこにしよう。長い目で考えたら会社のためになるだろうし、こんな対応が人を呼び店が繁盛するのでは。いろいろリモコンから昨今の社員のことまで考えが広がって行ったのでした。



車椅子がら眺めてみれば

街のおじさんから

高齢や障害で車いす生活になることは誰にでも起こるかも...でも車いすからは世の中がよく見える。そんなおじさんの考えたことを連載で。

思いがけず突然入院ということになり、多くの方々にご迷惑を掛けています。

昨年10月13日、定期検診で病院に行き、掛りつけの病院の血液検査で、白血球や炎症反応が異常値を示していたのでいろいろ調べた結果、以前からの褥瘡(ジョクソウ)床ずれが悪化していて、即入院となりました。

これは車いす使用者だけではなく、寝たきりの人にはよく出来る症状で、

身体の一部が圧迫されて

毛細血管から血液が送り

込まれなくなると、身体

組織が壊死して広がり、

やがて骨や骨髄まで侵されるとい、ケッコウ怖いキズなのです。車いすの使用者の多くは、褥瘡に悩まされてい

るのですが、神経がマヒしていると痛みが無いので、内部で酷いことになっていても気がつかないのです。

私のキズは、仙骨や尾てい骨というお尻の骨まで侵されていていました。それで治療は、悪くなっている部分を全部取ってから、健全な組織を移植出来るまでに1ヶ月以上、移植回復手術をしてから定着するまでに5週間掛かりました。

その後、退院できるようリハビリです。

褥瘡を治すには100

日掛かると聞いていまし

たがその通りでした。

今の病院の問題など、入院して分かった事など次回に。(この項づく)(身障者相談員・山名勝)



### 地域の福祉、みんなで参加

●地域の福祉の充実に、みなさまのご支援をよろしくお願い致します。共同募金は、10月1日～12月31日の期間ですが、年間を通じて寄付金を受付しています。●大阪府共同募金会事務局は、谷町7丁目交差点を信号1つ西入ルの大阪社会福祉指導センターの2階にあります。どうぞよろしく。●ホームページをぜひご覧下さい。http://www.akaihane-osaka.or.jp

### ささき歯科医院

診療科目	歯科 小児歯科 歯科口腔外科 矯正歯科						
診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○	△
14:30~19:30	○	○	○	○	○	★	△

★土曜日午後は17:00まで 休診日:水・日・祝

TEL.06-6765-1700

〒542-0067 大阪市中央区松屋町3-20 松屋町 ささき歯科 松屋町



今回の快傑空堀人は安心安全なお米をお届けする上六米穀の飼手さん。全国で300人しかいないというお米マイスター五つ星を取得されています。お米に対するこだわりや思いなど伺いました。

空堀通り商店街の谷町筋手前にある上六米穀は1930年に創業した町のお米屋さん。オーナーの飼手さんはお米の消費者と生産者の架け橋となるお米屋として、上六米穀を経営している。飼手正洋さん

飼手正洋さんはお米の消費者と生産者の架け橋となるお米屋として、上六米穀を経営している。飼手正洋さんはお米の消費者と生産者の架け橋となるお米屋として、上六米穀を経営している。

飼手正洋さんはお米の消費者と生産者の架け橋となるお米屋として、上六米穀を経営している。飼手正洋さんはお米の消費者と生産者の架け橋となるお米屋として、上六米穀を経営している。

快傑！からほり人 快傑ファイル其の三十三
お米の消費者と生産者の架け橋となるお米屋として
上六米穀を経営している
上六米穀 代表 飼手正洋さん

上六米穀
大阪市中央区谷町7-1-46
【お問合せ】06-6761-1838
【営業時間】8:00-19:00(日祝除く)
飼手正洋さん
「お米に対する消費者のニーズは変化しています。そこに柔軟に対応しながら、和食の根本にあるお米という存在を文化として残していきたい。農家がちゃんとつくれ、安心して提供できる環境づくりは築いていきたい」と飼手さん。

ねぼけ堂

大阪市中央区瓦屋町1丁目2-4



去年の秋に開店したねぼけ堂を訪ねました。古い家を改築し懐かしい雰囲気のあるお店です。入るとすぐ右手に板張りの座敷。壁際には本が一杯で将来貸本屋さんもできたらいいな。奥に進むとカウンターがあり5、6人でいっぱいな感じ。ゆくゆくは板張りの座敷で保育園の苦手な子供たちの場にしてみたい。できたら子供食堂もしたい。どれも必要に迫られたらと思う。一つ一つ夢がありながら明言されないのは縛られる感が嫌なのだそうです。

開店前もちまきをされていたのをネットで見たのですが、話を聞き忘れていました。看護師をしていたお母さんが、人一倍責任感が強かったそうで、夜でも昼でも呼び出されたら仕事に行っていた。お母さんの姿をみて責任感という重圧をよく知ってられるからか(永井が推測)、約束をする、決めるのは苦手。店は自然体で開けていきたいけど生業のために時間を決めた。生業(なりわい)わざわざ強調されるので聞くとはなく自分の生きるための仕事になってると解説。ちなみに、店の備品の90%は譲り受けたものだそうです交友関係の広さがしのばれます。今はとても気持ちは自由で毎日が楽しいそうです。皆様一度行ってください。

お弁当とお惣菜の店 父ちゃん

☎050-7128-6260
大阪市中央区谷町7-6-4
ときわハイツ1F

去年に見つけていたお店に伺い、お話を聞いてきました。江口さんは大学を出て営業職に就いた。社長に仕込まれ「営業は物を売るのではない。私という人を売る」と叩き込まれ28歳でその会社の経営にも加えてもらった。30歳で独立して保険代理店と食堂やケータリングの店を経営。成長していたが4年前に失敗。声を掛けてくれる先輩があり生きなおす希望につながった。やっと落ち着いたので、何かしようと思ったが、これからの人生はお金を儲けるだけではなく人の力になることをしたい。お金は最低限でいい。仕事とボランティアと分けるのではなく毎日が誰かの役に立つことがしたいと、こんな形にした。



父ちゃんでは総菜の持ち帰りは70歳以上、半額で販売され、儲かるのと心配になり聞くと、もっと作ればという人もいるけど赤字にならない量を作っている。(安心しました)
将来はお年寄りや、子供のための食堂をしたい。夢を聞きましたら、ここがお年寄りのたまり場になればいいと思っている。熱い思いが実現しますように。聞いているうちに応援団になってしまいました。



